

# 学校だより



平成28年2月1日

横浜市立二谷小学校  
校長 渡邊 文子

## 優劣を超えた輝き

学校長 渡邊文子

朝のバスの中で、ふとあるポスターの言葉が目にとまりました。

「ビリってことは、走れたこと〜。」

ポスターの写真には、小学生の男の子とお父さんが運動会で手をつないで走る姿が写されていました。大病を患った少年が回復し、運動会で100m走に出場したときのものだそうです。息子さんが高校生になった今も、その日のことを忘れることはできないというお父さんの言葉が添えられていました。何かが人よりできたとかできないとかが気になって、一喜一憂することが大人も子どももあります。けれども、その人の生命の輝きは、優劣を超えたところにあるということをしみじみ感じさせてくれるポスターでした。ようやく朝日がうっすらと射し始めた街の中で、写真の少年の姿が輝きを増して見えました。

1月には、図工作品展や文集づくり等の、子どもたちが自分の思いを表す学習が多く行われました。今年は、体育館工事のために書き初め展や作品展の展示スペースが限られていましたが、狭いながらも子どもたちの作品が並ぶ光景は心躍るものでした。子どもたちの手から生まれる一つ一つの造形作品は、それぞれに味わい深く、私もタイトルを読んで「ああ、なるほど。」と感心しながら鑑賞しました。どれもが、世界に一つの大事な作品です。また、文集づくりでも、原稿用紙に向かって言葉を紡いでいる姿は、どの子も一生懸命で、まさしく「書くことは考えること」という言葉そのものでした。

先日、プロの落語家でいらっしゃる桂宮治さんをお迎えして、4・5年生の落語教室を行いました。笑いの渦のひとつときでしたが、驚いたのは「小唄を前に出てやってみたい人はいないかな。」という呼びかけに、4・5年生の手がずっと上がったことでした。4人が代表として前に登場し、堂々と演じてくれました。会が終わった後で、宮治さんから話の聞き方がよかったとお褒めの言葉とともに、「みんなの前でやってみようという子がいるということは、それを認めてくれる周りの雰囲気があるということです。」というお話がありました。

自分の思いや考えを素直にのびのびと表現しようとする事、そして、それを認め、受け止めること、優劣の比較を超えて精いっぱい表現を互いに大切にすることは、相手を認め、尊ぶことでもあります。

今年度も残り2か月となりました。風邪やインフルエンザに気を付けて、元気に学年のまとめをしていきたいと思ひます。